

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200124		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	恵庭市有明町1丁目8番8号		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0171200124-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの横に綺麗な川が流れ、春には渡りが訪れ秋には鮭も遡上する等自然に恵まれ四季を感じ、入居者様と毎年、楽しみに過ごしています。また、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに、入居者様に寄り添い・出来る事へ参加を大切に日々、元気な明るい職員と共に家事への参加・天気の良い日には周りの花々を見ながら散歩へ行き、近くの公園で近所の小さなお子様と触れ合いを持ち、入居者様の暮らしを豊かに・楽しく過ごして頂けるように支えています。
また、ご家族との関係作りを大切にし、2ヶ月に1回だんらん新聞を発行し、日常の様子を伝え面会時には、より詳しく様子を伝えるよう行っている。行事の際も、入居者様とご家族の絆を大切に一緒に過ごせる時間を作る工夫をしています。毎日の体操にも利用者様・職員共に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵庭市街の道道46号江別恵庭線と茂魚川が交差する近くにある本社併設の事業所は、2ユニット2階建てで法人が運営する居宅介護支援事業所が1階にあり協力が得られる体制である。理念の「ゆっくり/いっしょに/たのしく」を実現した利用者の暮らしをベテランの職員が支えている。共有空間は広い窓から明るい日差しが差し込み、戸外の景色や車の往来を見ながらのんびり過ごすことができる空間となっており、利用者の身体機能低下予防のための歌唱や体操、レクリエーションを行う場所にもなっている。前年度までは感染症流行のため自粛していた外出も、今年度から少しずつ再開しており、盤尻地区の桜公園や恵庭溪谷に紅葉見物にも出かけ、以前のような自然に触れ合う機会も増えてきている。医療面では協力医療機関や入居前のかかりつけ医への通院受診も家族の都合がつかない場合は事業所で同行受診をしており、看護師の訪問と歯科や皮膚科の訪問診療を受け、安心した暮らしを支援している。排泄支援では夜間帯も利用者に声かけをしながら個々にトイレ介助を行っているので、失敗による不快な思いをせず、出来るだけ快適な状態でいられるように支援を行っている。職員が連携し利用者を最優先に考え、尊厳を重視した暮らしが実現できるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・スタッフ理念を共有し、利用者様が望む生活を送れるようにチームで話し合い、より良いケアに繋げている。	事業所内の壁やパンフレットに明記してある「ゆっくり/いっしょに/たのしく」を基に、職員が3か月ごとにスタッフ目標を考え、利用者が当たり前の生活を送れるよう尊厳を重視した介護を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内会長や回覧板を通し地域の情報を得ているが、コロナや感染症への警戒もまだ消えず、なかなかそれ以外の交流に至れていない状況。	地域の情報を回覧板から収集し、町内の夏祭りや盆踊りの見学をしている。地域住民の相談に応じ事業所の見学に対応している。運営推進会議に町内会長と民生委員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のとき、ホームの様子・取り組みを報告し意見を頂いている。また、地域の方から電話で相談があった際には見学に来ていただき相談をうけアドバイスなど行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を行い活動報告・行事の様子・入居状況等を報告しアドバイスをうけサービス向上に繋げている。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター、恵庭市介護福祉課、管理者が集い定期開催し、事業所報告、利用者状況、事故ヒヤリハット、参加者から意見等が記入された議事録を作成している。	会議では職員の入退職や異動なども報告する事が望まれており、参加できなかった家族等の意見も聴取し、議事録に加える事と、参加できなかった家族へ議事録を送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や書類提出の際、利用者様の状況報告やホームの状況をお伝えし協力関係を築いている。	管理者は介護認定の変更申請に出向いたり、調査依頼をメールや電話で協力をするなどで連絡を取っている。恵庭市グループホームネットワーク会から電話等で情報を収集している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している。玄関の施錠は夜間以外せず、センサーの使用に関しても入居時に説明・ケアプランにも文言をいれご家族様の理解を得た上で使用している。	指針に基づき3か月ごとの委員会と認知症の理解についての研修を行っており身体拘束の事例は無く、日常業務ではスピーチロックに留意し、研修後は職員が報告書を提出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は虐待防止の外部研修に参加し会議の時に全員に周知し全ての職員が虐待についての理解を得るようにしている。		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会などの参加をし学ぶ機会を設けている。又、ご家族様にも研修案内等をお渡ししている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時・改定などある際は十分な説明を行い理解と了解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には面会時に都度問いかけ、頂いた意見・要望はミーティングで話し合いを行い運営に反映させている	「だんらんだより」を2か月ごとに家族へ発送し、面会や電話で出た要望は「面談及び説明の経過記録」に記入し職員で共有している。利用者の外出がしたいとの意見には散歩や花見と紅葉のドライブで実現している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の話し合いやスタッフ会議などで職員の意見や提案を聞きケアや運営に反映させている	毎月のスタッフ会議や日々の業務で職員の意見や要望を聞いている。服薬の事故防止のため飲み終わった薬の袋を確認のため一時保管することで事故防止になっているなど、意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ1人1人の努力や実績を把握しやりがいもてるよう工夫したり環境面や条件の整備にも努めているが、近年はスタッフ数の確保が難しくなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響にて外部研修が減っていたが少しずつ研修への参加が再開しており働きながらトレーニング等を意識し努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHでネットワークを作りサービスの質を向上できる様勉強会や情報交換を行う取り組みをしている。コロナの影響やどの事業所も人員不足で集まりが難しくなっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談がある場合、必ず本人と面談し不安なことや困っている事を聞き職員も本人に受け入れてもらえるように関係づくりをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前にご家族様にホームを見学してもらい不安なことや困っていることを聞き解消できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活状況の確認や日常の様子など情報を提供していただき必要な支援ができる様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の皆様が主役である事を理解した上で双方が尊重し合える関係を築くよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の様子・受診結果等を細かく伝えるようにしそこから気付いたことを日々のケアに取り入れ活かせるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に希望を取り聞いている。コロナの影響も考えながら少しずつ工夫して外出できる機会を増やせるように努めている	年賀状が届いたり文通をしている利用者には手紙の投函や開封、代読、友人や家族への電話をかける際の支援を行っている。家族と通院時に外食や買い物をする時もある。家族訪問時にはソファでゆっくり話せるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の思いや個性を尊重しながら一緒に協力し合っている。また孤立しないよう声掛けに重点をおき対応している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の際やサービス利用終了後も相談を受けたり関係性が切れないう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや希望を出来る限り把握するように努め本人の本位にそえるように努めている	日々の会話から利用者の好みや希望を聞いたり、表現が困難な場合も日常の様子や表情、家族からの情報で本人の思いをくみ取り、職員間で話し合い支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の個人ファイルを用意しセンター方式を活用しご本人とご家族に確認しながら作成している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人の状態を観察し介護記録やカンファレンスを通して全職員が把握できる様にしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方についてスタッフ会議等で検討している。また、業務中の気付いた点も記録に残し介護計画を作成している	担当職員がアセスメントとモニタリングを行い、職員、計画担当、管理者を含むチームでサービス担当者会議を経て見直しをしている。本人や家族の意見を確認し3か月ごとに介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に添った記録を個別に記載実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて送迎を行ったり既存のサービスにとらわれないよう柔軟なサービスができる様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節にあわせた室内レク・外出レクを行い楽しめる様支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診希望があれば通院支援している。家族同行の受診もあるが難しいときは職員のほうで対応している	協力病院や入居前のかかりつけ医を受診し、訪問看護師が毎週訪問し看護記録を書いている。皮膚科や歯科の往診を受けている。変化のあった場合は受診内容や投薬変更を家族へ連絡している。	

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見逃さないように早期の発見に取り組んでいる。変化があれば訪問看護へ連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様の支援に関する情報を医療機関に提出している。医療機関や家族と情報交換を行い早期退院に繋がるように勤めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、本人・ご家族と十分に話し合い方針を共有し医療機関とも連携をとっている。また希望によりご家族のご協力がある場合には看取りの受け入れも行っている。	「医療連携・重度化に関する指針」を基に医師と連携し、利用者の体調変化と家族の意向を確認しながら事業所での看取り対応を相談し最終段階での医療機関への移行を含め支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の協力を得て、救命の研修を実施しており、全スタッフが対応出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の立会いで年に2回の避難訓練を行っていたが、コロナなどの理由により自主訓練としておこなっている	業務継続計画に基づき年2回の災害訓練を行い消防署に届けているが、直近2回は屋間の火災訓練となっているため次回の訓練で自然災害を想定した訓練を予定している。災害時は町内会長と近隣住民から協力を得られる状況にある。	業務継続計画にそって自然災害を想定した訓練を本年度中に早期実施することを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に羞恥心にも気を配り安心して頂けるような声掛けを行うように努めている	職員は認知症の理解と介護の研修を行い、3つのロックを心がけ利用者の尊厳を大切に丁寧な温かみのある言葉で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の状態に合わせてご本人の思いや希望を感じ取ったり自己決定が出来やすい様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースにそって過ごして頂けるように支援している。入浴等も無理せず声掛けを工夫し本人の意思にそって行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやオシャレが出来るよう、本人と確認・相談しながら支援している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べやすい物を提供し、行事や誕生日には好みの物を取り入れるようにしている	委託業者から1人当たり平均1日1600キロカロリーの献立表と食材が届き職員が調理をしている。誕生日や行事、イベント時には食材を止めて特別なものを提供し、おやつは手作りしたりと変化を付けて楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個々で違うためご本人達が摂取しやすい様工夫し、水分もなるべく好みの物を提供するように努めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへ個々に誘導し、自分で出来る方は見守り、そうでない方は介助を行い口腔内の清潔保持に努め誤嚥にならない様にしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみてトイレ誘導を行い介助の必要な方には排泄の介助を行う。パット類は本人に合わせて使用している	排泄チェック表を確認しながら、タイミング良く声かけを行い、失敗せずトイレで排泄できるよう支援をしている。利用者の排泄状況を判断しパッド等の大きさや使用頻度を踏まえ排泄用品の見直しをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に気をつけ、トイレごとに腹部マッサージなど排便に繋がるように介助している。体操の時間には腸運動を促す動きも取り入れている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望にそうように声掛けをしたり本人が楽しめる様工夫している。浴後には、保湿や必要な軟膏を塗布も行うようにし、時間の調整も行っている。	1人週2回の入浴は本人の好む湯加減でリラックスできるよう支援をしている。介助する職員と話す時間も良いコミュニケーションの機会となっている。入浴を好まない時は日や時間の変更をしている。湯上りの選べる水分補給は種類が豊富で喜ばれている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に合わせた生活リズムが崩れないように支援している。夜間安眠できる様、室温や寝具の調整も行っている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様1人1人のファイルに服用している薬を記入しいつでも確認できる様にしている。変更があった場合マーカーで色を付け分かりやすく工夫している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の力に応じて出来そうな仕事を頼んだり、職員と一緒にいき、その雰囲気を楽しんでもらい感謝の言葉を伝えるようにしている			

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で外出を自粛していたが、紅葉狩り、お花見ドライブなど季節や希望に合わせて支援している。出掛ける時は少人数で行っている	ここ数年の外出自粛期間を経て現在は数名ずつの外出を再開している。今年度は盤尻地区の桜公園や恵庭溪谷に紅葉見物にも出かけている。家族と受診の際に外食や買い物をして戻ってきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で金銭管理を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたい時にはいつでも電話を出る環境を作り、声掛けもおこなっている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や日常生活で利用者様が作った作品を飾ったり、季節を感じてもらえるように壁に創作物を貼り、利用者様に楽しんでもらえるように工夫している	一日の大半を過ごす居間は大きな窓で明るく、エアコンや空気清浄機、加湿器を使用し快適な空間である。利用者が集まり歌や体操、ゲームをしながら楽しく談笑している。壁の飾りで利用者が季節感を感じ、居心地のよい空間を共有している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の利用者様に合わせた居場所の工夫を模様替えをしながら行っている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人のなじみの物への説明を行い、ご家族や本人と話し合いながら居心地のいい環境作りの支援を行っている	照明器具とカーテンが設置され、パネルヒーターの暖房で暖かな居室に自宅から馴染みの品を持ち込み利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。利用者の希望を聞き、安全面を考慮し転倒防止のため、家具の配置を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来ることや出来そうなことを声掛けしている。職員で声掛けの仕方、援助方法などを話し合い情報交換を行い少しでも自分で出来る事が増える様支援している			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200124		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	恵庭市有明町1丁目8番8号		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171200124-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの横に綺麗な川が流れ、春には渡りが訪れ秋には鮭も遡上する等自然に恵まれ四季を感じ、入居者様と毎年、楽しみに過ごしています。また、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに、入居者様に寄り添い・出来る事へ参加を大切に日々、元気な明るい職員と共に家事への参加・天気の良い日には周りの花々を見ながら散歩へ行き、近くのパークで近所の小さなお子様と触れ合いを持ち、入居者様の暮らしを豊かに・楽しく過ごして頂けるように支えています。
また、ご家族との関係作りを大切に、2ヶ月に1回だんらん新聞を発行し、日常の様子を伝え面会時には、より詳しく様子を伝えるよう行っている。行事の際も、入居者様とご家族の絆を大切に一緒に過ごせる時間を作る工夫をしています。毎日の体操にも利用者様・職員共に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭におきケアにあたっているがなかなか「ゆっくり、一緒に」が出来ていない		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより外出に行く機会が無かったが、今後少しずつ機会を作っていくようにしていく		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、理解・支援について話しているが、具体的な活動はコロナにより行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用者様の状況、サービス、取り組みの報告を行い、意見交換をしサービスの向上に繋げている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、サービスの状況や事故などの報告を行い、必要な時には相談するなどの協力関係を築いている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての理解を全職員に周知を徹底し、研修に参加した際には研修内容を伝達する取り組みを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「絶対にあってはならない」という意識を全職員が持ち、日頃からお互いに注意し、ひやりはっと、事故報告などから話し合いを行っている		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナにより研修に参加することは無かったが、今後は開催される研修に参加し学ぶ機会を作っていくようにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定などあった際は十分に説明し納得して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナにより運営推進会議にご家族様の参加はしていないが、面会などあった際に意見や要望をきいている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議などを通して、意見や提案があった際には随時運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状態を把握し、環境・条件について具体的な配慮や工夫ができる様に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナにより、研修に参加する事はほぼなかったため、以前の研修資料などを参考に話し合い、スキルアップにつなげていけるように努めていく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより直接会う機会は無かったが、空き状況などを電話を通してやりとりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談がある場合には必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、スタッフが本人に受け入れてもらえるような関係作りをおこなっている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安な事、困っている事、これまでのご本人の生活や暮らし等を伺い、どのように支援していけばよいか話し合い、ご意向にそえるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いや状況を理解し、ニーズを把握した上で必要としている支援を見極め対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人と一緒に家事や作業をし、暮らしのパートナーとしての関係を築くように努めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いや考えを尊重し、ご家族様の来訪時や電話などで本人の様子を伝えたり、協力を得ながら共にご本人を支えていけるような関係作りに努めている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望を聞き、可能な限りそえるように努めたが、今年も自粛傾向にあり対応しきれないこともあった			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の思いや個性を尊重しながら一緒に楽しく協力し合えるよう調整役となって声掛けや雰囲気作りを行っている			

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもご本人、ご家族様からの相談があれば対応している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何かをする時はご本人に確認してから行うようにしている。またご本人やご家族様から話を聞きどの様に支援するか検討し、希望や以降の把握に努めている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	資料だけでは分からない生活歴や環境等はその都度、ご本人やご家族様に確認し情報集めに努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子を記録に残し出来る事に参加して頂ける様に現状の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアのあり方について、スタッフ会議で検討、またご本人やご家族様の意向を聞いたうえで計画作成を行っている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそった記録を個別に記入し、共有し、会議にて介護計画の見直しを行っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の必要に応じ福祉用具の販売等を行っている。他受診時の移送サービス支援も行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナにより地域との交流は少ないが、イベント、レク等楽しむことができる様に支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけの病院へ定期的に通院している。緊急時等は都度ご本人のご家族様に相談しながら支援している			

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い早期発見に努めている。状態の変化があった場合は訪問看護に報告・相談し適切な指示をうけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様の支援に関する情報を医療機関に提出し、また入院中にも情報交換や相談を行い関係づくりに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、ご本人やご家族様と十分に話し合い方針を共有、医療機関とも連携をしながら取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルがあり確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、どの職員も速やかに行える様にしている。町内にも協力を依頼している		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格、プライバシーに配慮しながら、声かけや対応をするように心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、希望を話しやすい雰囲気作りに気をつけ、自己決定をして頂ける様声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、出来る限り希望にそった支援をするように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを把握し、その人らしい身だしなみやおしゃれができる様に支援している		

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みを考慮し、味付けや食事形態の対応をしている。準備や片付けなどは無理のないように声掛けを行っている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録に残し、栄養摂取・水分確保に努めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け誘導し、見守りや介助など本人の能力に応じた支援をしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、間隔を確認しながら声掛けを行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供、適度な運動、下剤調整などを行っている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に配慮しながら声掛けし、無理強いのないように気をつけて支援を行っている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣や状況に合わせて支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を読み、目的や副作用など理解し体調の変化に気付けるように努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の力を活かし、食器拭きや洗濯物たたみなどの片付けの支援を行っている			

グループホームだんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナもあり外出の機会がないため、今後機会が出来たら外出ができる様に努めていく			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員で行っている。本人に必要な物があれば代わりに購入し、確認を行っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には支援している。電話などが困難な方には職員が代わりに対応している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節に合わせた飾りつけを行い、利用者様に季節感や楽しさを感じてもらえるように支援している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くにソファを置き、音楽番組やドラマなど利用者様の好みのものを見られるように支援している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお気に入りの物(ぬいぐるみや写真など)を飾り、落ち着いて安心して暮らせるように支援している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室・トイレ・浴室などが分かる様に、分かりやすい目印をつけ、なるべく自力で行える様に支援している			